

大洗町第6次総合計画に基づく令和6年度事業評価 政策別評価一覧

政策4

大洗の未来を担う人材を育てるまちづくり

(R7.7月末時点)

施策 No.	施策名	個別 施策	重点	具体的な取組み	評価				担当課
					R3d	R4d	R5d	R6d	
4-1	幼児期の教育・保育の 推進	4-1-1	○	保育環境の充実	B	B	B	B	こども課
		4-1-2		保幼少連携による幼児期の教育の質の向上	B	B	B	B	こども課
		4-1-3		学童保育内容の充実	B	B	B	B	こども課
		4-1-4	○	切れ目のない親と子への健康支援	B	B	B	B	こども課
		4-1-5	○	子育て世帯への支援体制の充実	B	B	B	B	こども課、住民課
		4-1-6		児童虐待防止の推進	B	B	B	B	こども課
4-2	知・徳・体が調和した特 色ある教育の推進	4-2-1		豊かな人間性を培う教育の推進	B	B	B	B	学校教育課
		4-2-2	○	確かな学力を身につける教育の推進	B	B	B	B	学校教育課
		4-2-3		健やかな心と体を育む教育の推進	B	B	B	A	学校教育課
		4-2-4		小中連携教育の推進	B	B	A	A	学校教育課
		4-2-5	○	社会の変化に対応した教育の推進	B	B	A	A	学校教育課
4-3	学校・家庭・地域の連携 と協働による安心して学 べる環境の整備	4-3-1	○	学校・家庭・地域との連携・協働	B	B	A	A	学校教育課
		4-3-2		信頼・尊敬される教員の育成	B	B	B	B	学校教育課
		4-3-3		学習環境の整備と学校組織運営の改善	B	B	B	B	学校教育課
		4-3-4	○	いじめ・不登校等への対策と安全確保	B	B	B	B	学校教育課
		4-3-5	○	すべての子どもたちへの学習機会の確保	B	B	B	B	学校教育課
4-4	生涯学習活動の推進	4-4-1	○	社会教育の推進	B	B	B	B	生涯学習課
		4-4-2	○	青少年の健全育成	C	B	B	B	生涯学習課
		4-4-3	○	スポーツ・レクリエーション活動の推進	C	B	B	B	生涯学習課
		4-4-4	○	指導者・団体の育成、強化	C	B	B	B	生涯学習課
		4-4-5	○	芸術文化活動の充実	B	B	B	A	生涯学習課
		4-4-6	○	文化団体の活動の推進・支援	B	B	B	B	生涯学習課
4-5	歴史資源の保存と活用	4-5-1	○	史跡磯浜古墳群の整備	B	B	B	B	生涯学習課
		4-5-2	○	大洗遺産の認定	C	B	B	C	生涯学習課
		4-5-3		文化財の保護活用	B	B	B	B	生涯学習課
		4-5-4	○	歴史文化の普及	B	A	B	A	生涯学習課

第6次大洗町総合計画 令和6年度事業評価シート

施策番号	施策名
4-1	幼児期の教育・保育の推進

担当課
こども課、住民課

	施策	目標及び指標	基準値 (令和2年)	推移(年度末)			現状値(令和6年度)	
				令和3年	令和4年	令和5年	目標値	実績値
KGI	-	町内の保育環境に対する満足度	44.3%	-	-	37.8%	50.0%	-
KGI	-	子育て世帯への支援体制の充実に対する満足度	65.1%	-	-	66.0%	70.0%	-
KGI	-	大洗町で、今後も子育てをしていきたいと思う方の割合	62.7%	70.3%	74.5%	62.6%	90.0%	91.2%
KPI	4-1-1	保育所等の待機児童数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
KPI	4-1-4	産後、退院してからの1ヵ月程度、助産師や保健師等からの指導ケアを十分に受けることができた方の割合	88%	97.6%	92.7%	91.8%	95%	85.7%
KPI	4-1-4	子どもに対して育てにくさを感じている方のうち、相談先を知っているなど何らかの解決方法を知っている方の割合	71%	79.2%	78.6%	81.8%	90%	77.8%
KPI	4-1-5	ひとり親世帯への相談会の開催	新規設定	0回/年	1回/年	2回/年	3回/年	0回/年
KPI	4-1-5	小児医療費自己負担	無料	無料	無料	無料	無料	無料

令和6年度の実組み及び前期計画を総括した自己評価(※A～D)			評価
4—1—1	保育環境の充実	こども課	B
取組内容や 今後の方針	延長保育や病児保育、子育て支援拠点事業等の実施により保育環境の充実を図った。令和4年度からの物価高騰対策を継続し、保育施設に対する給食費の一部補助を行っているが、令和6年度より、さらに金額を増額し給食の質の維持と保育施設の負担軽減を図った。また、少子化を見据えた今後の公立保育所のあり方について庁内で引き続き協議を行った。今後も関係機関と連携し、より一層の保育環境の充実を図る。		
4—1—2	保幼小連携による幼児期の教育の質の向上	こども課	B
取組内容や 今後の方針	保育施設と小学校の連携を図るため、「相互保育(授業)参観」などを実施し、共通理解を図った。また、合同研修会や新一年生の情報交換会、園児と小学校児童との交流活動などを行うなど、保育から教育へ切れ目なく繋がるよう支援を行った。		
4—1—3	学童保育内容の充実	こども課	B
取組内容や 今後の方針	民間学童も含め、待機児童「0」を継続している。放課後の子どもたちが楽しく、安全・安心に過ごせるよう努めた。また、令和6年度よりこども課に配置された専門職とも連携し、発達に課題を抱えた子ども達への支援についても対応を話し合いながら保育にあたった。その他、各種研修会への参加による支援員のスキルアップを図ったほか、警察官の指導のもと「不審者対策」について実技を交えた講習会を実施するなど安全対策の取り組みも行った。		

(次のページへ続く)

令和6年度の取組み及び前期計画を総括した自己評価(※A～D)			評価											
4—1—4	切れ目のない親と子への健康支援	こども課	B											
取組内容や 今後の方針	令和6年度から子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点を統合し、「こども家庭センター“ほっと”」を開設した。これにより特に妊娠期から周産期、乳幼児期を通して継続的な相談対応が可能となるなど、母子保健と児童福祉の連携がスムーズになり、多面的で切れ目のない支援が可能となった。今後は様々な機会を通じて「こども家庭センター」の周知を図り、関係機関と連携を強化し、親子がより安心して子育てを行えるよう支援体制の構築を図る。													
4—1—5	子育て世帯への支援体制の充実	こども課、住民課	B											
取組内容や 今後の方針	令和 6 年度は「こども家庭センター」を開設し、人員体制等を整えて子育て支援施策を拡充できた。また「親子ふれあいセンターきらきら」において、子育て関係団体と連携しつつ親同士の交流や子育て支援に努めた。ひとり親への相談会は、計画したものの参加者がおらず開催に至っていないが、個別相談には随時対応している。今後は、子育て世帯のニーズを把握し新たな支援体制の構築を検討していく。 ・親子ふれあいセンター利用者数:年間 3,868 人(親子合わせて) ・親子ふれあいセンターを活用した他機関のイベント数:12 回 ・ひとり親の個別相談件数:3 件 県の制度である医療福祉費支給制度により、病院等受診時の自己負担の軽減を図る。町独自に実施している中高生の外来の助成、入院時食事代の助成等の対象範囲の拡大と、0歳から18歳までの医療費無料化について、今後も子育て世帯が安心して必要な医療を受けられるよう制度の維持を図る。 (参考)医療福祉費支給制度(マル福) 小児における助成内容 <table><tr><td></td><td>茨城県</td><td>大洗町</td></tr><tr><td>外 来</td><td>0 歳から小学 6 年生まで</td><td>0 歳から高校 3 年生まで</td></tr><tr><td>入 院</td><td>0 歳から高校 3 年生まで</td><td>0 歳から高校 3 年生まで</td></tr><tr><td>入院時の食事代</td><td>自己負担</td><td>全額助成</td></tr></table>				茨城県	大洗町	外 来	0 歳から小学 6 年生まで	0 歳から高校 3 年生まで	入 院	0 歳から高校 3 年生まで	0 歳から高校 3 年生まで	入院時の食事代	自己負担
	茨城県	大洗町												
外 来	0 歳から小学 6 年生まで	0 歳から高校 3 年生まで												
入 院	0 歳から高校 3 年生まで	0 歳から高校 3 年生まで												
入院時の食事代	自己負担	全額助成												
4—1—6	児童虐待防止の推進	こども課	B											
取組内容や 今後の方針	令和6年4月から開設した「こども家庭センター」の児童福祉部門に要保護児童対策地域協議会(要対協)を置き、母子保健との一体的な情報連携のもと、多職種が連携して児童虐待への対応を行っている。また、学校、教育委員会、児童相談所等の要対協関係機関と定期的に情報共有し連携を図りながら、児童虐待の早期発見と継続的な支援に努めている。さらに、親向けの子育て教室を実施し、親の関わりで子どもの行動変容を促し、児童虐待の予防を図った。 ・虐待対応実件数:19 件 ・親向けの子育て教室(ペアレントトレーニング):1 クール(3 回コース):延 10 名参加													

審議内容(委員意見や質疑内容など)	
4-1-1	委員:病児保育について、引き続き、ひじり保育園で実施していることで変わらないか。利用率や実績等の数値はあるか。 担当:ひじり保育園1園での実施で変わらない。月に5~10名程度の利用があるが、ほとんどがひじり保育園の児童等である。昨年の審議会でも同様の話があったことから、子育て世帯に全戸配布した冊子により、病児保育の利用についてさらに周知を図っている。 委員:ひじり保育園の保護者以外が使いづらい現状は、もったいない。町内の保護者全員が利用しやすいようにぜひ周知を続けてほしい。 委員:KGI「町内の保育環境に関する満足度」の数値が低い、その原因は。 担当:計画策定当初、数値の執り方に問題があった。今後は、現実に応じた数値を把握できるよう、個別アンケートの実施などを予定している。
4-1-3	委員:学童における、発達に課題を抱えた児童の数は。 担当:正確な数は把握できていない。 委員:担当としての感覚では、どうか 担当:しっかりとした数値があるわけではないが、感覚としては以前に比べて、そういった児童の数は増えてきているように思う。 委員:思い当たる原因はあるか。 担当:はっきりと原因を示すことはできない。 委員:支援員のスキルアップについて、昔から協力いただいている支援員も多いと思うが、今の子どもたちへの対応は十分にできているか。保護者から不安の声などはあるか。 担当:支援員については長年勤務している方が多く、平均年齢が高くなっていることは否めない。学童においては、子どもの対応が一番重要ではあるが、保護者への対応についても大事になってくる。今の時代にあった対応を学べるよう、今後、研修を予定している。 委員:最近は男性の支援員も居ると思うが、昨今のニュースなどを見ると、女子児童の保護者にとっては不安になることもある。そういった部分もフォローできるよう、対応を考えてほしい。
4-1-6	委員:児童虐待に関して、フォローが十分ではないからB評価といった説明があったが、虐待後のフォローとは、具体的にどんなことか。 担当:通常、児童虐待の対応に係る流れとしては、まず初めに虐待の通報があり、続いて実態を調査、実際に虐待が確認できれば親への指導といった流れとなり、その後1月後など時期を決めて評価が必要となる。しかしながら、これまでは評価まで取組めていなかった。また、虐待が確認された過程は進行管理台帳で管理する必要があるがそこも十分に取組めていなかった。人員が確保できたことから、今後はしっかり取り組んでいきたい。 委員:その後も、継続して確認を続けないと、再発もあり得るのでは。長期的にフォローするには、人員的に足りていないのか。 担当:児童相談所の対応状況も確認し、最低でも半年間は状況を把握していきたいと考えている。進行管理台帳のほかにも、ちょっと気になる家庭をチェックする台帳が別にあるため、2つの台帳をともにクリアできれば、解決とみなせるようにしたい 委員:実績として19件と説明があったが、前年から引き継いでいる家庭もあるのか。 担当:引き継いでいる家庭も含めた件数である。 委員:虐待する親、保護者自身の育った環境などは把握しているのか。 担当:おおよそは把握している。母子手帳交付の段階から、保護者の育った状況等も聞き取り、把握に努めている。転入の場合は、後から聞き取ることもある。 委員:保護者も虐待経験者であるケースは多いか。 担当:そういったケースは多いが、そうでない場合もある。 委員:そうでない方の場合、現在の生活環境、経済状況などの影響が強いのか。 担当:そういったケースもあるが、こどもの特性により、虐待に繋がってしまうケースが多い印象。 委員:今、虐待を受けている子どもが親になったときに、自分の子どもに虐待してしまう、虐待の連鎖も問題になっている。そうならないよう、しっかりした対応をお願いしたい。

第6次大洗町総合計画 令和6年度事業評価シート

施策番号	施策名	担当課
4-2	知・徳・体が調和した特色ある教育の推進	学校教育課

	施策	目標及び指標	基準値 (令和2年)	推移(年度末)			現状値(令和6年度)	
				令和3年	令和4年	令和5年	目標値	実績値
KGI	-	学校が楽しいと感じる児童生徒の割合	小学校 96.5% 中学校 81.1% (令和元年度)	小 89.4% 中 82.5%	小 86.2% 中 87.2%	小 89.0% 中 84.0%	小 97.0% 中 85.0%	小 84.8% 中 80.2%
KGI	-	夢や目標に向かって努力している児童生徒の割合	小学校 88.0% 中学校 77.2% (令和元年度)	小 84.2% 中 75.4%	小 80.8% 中 68.2%	小 80.0% 中 60.5%	小 90.0% 中 80.0%	小 82.9% 中 72.6%
KPI	4-2-2	全国学力・学習状況調査標準化得点	全国平均以下	全国平均以下	中学校(国・理) 全国平均以上	中学校(数学) 全国平均以上	全国平均以上	全国平均以下
KPI	4-2-2	小学校で年間 50 冊、中学校で年間 30 冊以上本を読む児童生徒の割合	小学校 82.4% 中学校 5.1%	小 85.1% 中 4.1%	小 70.4% 中 3.5%	小 53.1% 中 3.2%	小 85.0% 中 10.0%	小 50.0% 中 0%
KPI	4-2-5	大洗町郷土テキスト「大洗道」スタンプラリー達成率	新規設定	25.0%	20.0%	65.0%	50.0%	100%

令和6年度の取組み及び前期計画を総括した自己評価(※A～D)			評価
4—2—1	豊かな人間性を培う教育の推進	学校教育課	B
取組内容や今後の方針	授業において「話す・書く・やってみる」というアウトプットを大切した体験的な活動を多く取り入れるようにした。また、学校行事や外部人材を招いての学習活動では、同学年や異学年、異年齢(多世代)等との交流を実施し、自己有用感の育成に努めた。 令和6年度においても、地域人材や団体を活用して、多様な人との交流や人権教育の充実を図りながら、児童生徒の豊かな人間性の育成を図った。		
4—2—2	確かな学力を身につける教育の推進	学校教育課	B
取組内容や今後の方針	児童生徒一人ひとりへの対応ができるように、町採用の社会人 TT や特別支援員の活用を充実させ、少人数指導(習熟度別学習等)及び個別指導(配慮を要する児童生徒、学習や学校生活につまずきの見られる児童生徒等)を行った。 電子黒板等の大型提示装置の整備や学習共有ソフトの導入により、児童生徒の考え方の共有や動画・図等を活用した学習など、ICT 機器を活用した分かりやすい授業に実施に努めた。ICT を効果的に活用した授業の実践例の紹介や研修をとおして、教職員の授業力向上に努めた。 各校の特別支援教育コーディネーターと飯富特別支援学校のコーディネーターとの定期的な会議を実施し、各校の課題や情報交換を密に行った。また、研修会を実施し、教職員の特別支援教育への理解を深めた。		
4—2—3	健やかな心と体を育む教育の推進	学校教育課	A
取組内容や今後の方針	県の「体育大好き推進事業(3年目)」の充実に努めた。加配教員(保健体育免許取得者)の活用により、南小学校(拠点校)及び大洗小学校への授業参加を実施し、運動の楽しさを味わわせるとともに各校の体力の向上に努めた。 幼稚園から中学校まで一貫した食育にも力を入れ、栄養教諭や管理栄養士の専門的な知識により、健康の保持・増進を図った。		

(次のページへ続く)

令和6年度の取組み及び前期計画を総括した自己評価(※A～D)			評価
4－2－4	小中連携教育の推進	学校教育課	A
取組内容や 今後の方針	教職員の指導力向上を踏まえた「小中合同研修会」や「相互授業参観」を実施し、小中間での取組の共通理解を図った。小学校の特別支援教育の参観や保育園・幼稚園の保育参観を実施したり、協議会を開催したりすることで保幼小中連携の推進を図ることができた。 小小連携については、定期的に 2 校間でオンラインによる研修を行い、学校を越えた教職員の資質向上が図れた。 児童においては、小学4・5・6学年の国語や総合的な学習において、2校間によるオンライン学習を実施し、小小連携を図ることができた。		
4－2－5	社会の変化に対応した教育の推進	学校教育課	A
取組内容や 今後の方針	英語教育の推進において、フィリピン現地講師とのマンツーマン指導によるオンライン英会話を小学5年生から中学3年生を対象に実施した。子どもたちは、ネイティブな会話(発音)を聞いたり、自分の英語が伝わる喜びを感じることができた。また、各校2名のALT(外国語指導助手)配置することにより、通常授業や学校生活の中でも、英語に触れる機会を増やすことができた。 科学教育の推進において、大洗サイエンスカレッジ事業で地域と連携協働した科学実験教室を実施し、最先端技術や科学の奥深さに触れる機会を創出することができた。 郷土学習の一環として、各学校における「大洗道」の活用と、社会科やクラブ活動での磯浜古墳群見学を実施した。		

審議内容(委員意見や質疑内容など)	
4-2-1 及び 4-2-2	委員: KPI「本を読む児童生徒の割合」について、人間性を培う教育にも繋がるものと思うが、現状では学力に関する KPI になっている。人間性を培う教育の推進に関して、具体的な取組みはあるか。 担当: 県からの委託受けて、人権教育に力を入れている 委員: 数値的なものを示すことは難しいか 担当: 数値として示すことは難しいが、例えば一中では、「人権フォーラム」をうみ・まちコミュニティスクールの委員と全校生徒で実施した。また、一昨年度から大洗小・一中では、小中連携の校内研修として、「人の気持ちを考える、人の話を聞く、自分の考えをわかりやすく伝える等の力を高めるため「社会情動的スキル」の向上に取り組んだ。 委員: 目に見えて変わるものはあるのか。 担当: KGI「夢や目標に向かって努力している児童生徒の割合」は上昇している。
4-2-2	委員: KPI「本を読む児童生徒の割合」について、中学生が0%となっているが、間違いないか。 担当: 年間30冊以上の本を読む生徒はいなかったということである。中学生が全く本を読まないということではない。
4-2-3	委員: 今年度の自己評価を A とした理由は。 担当: 体力テストの結果が以前よりも向上していることから A 評価とした。小学校では県平均よりも+12.9%、中学校では県平均よりも+13.7%となっており、数値として良い結果が見えている。 委員: 体力テストの結果が良くなったことは良いことだが、子どもたちの自主的な体力づくり、運動の推進には結びついていないように思う。 担当: 体力テストは全児童生徒を対象に行っており、全体として体力は増進していると考えているが、児童生徒自身の運動に対する意欲という点では必ずしも増進しているとは言いきれない。

第6次大洗町総合計画 令和6年度事業評価シート

施策番号	施策名	担当課
4-3	学校・家庭・地域の連携と協働による安心して学べる環境の整備	学校教育課

	施策	目標及び指標	基準値 (令和2年)	推移(年度末)			現状値(令和6年度)	
				令和3年	令和4年	令和5年	目標値	実績値
KGI	-	安心して子供を育てられる環境が整っていると思う保護者の割合	89.0%	93.9%	92.0%	90.8%	90.0%	89.8%
KGI	-	既存組織の再編による学校運営協議会の設置	4校	0校	4校	4校	4校	4校
KPI	4-3-4	不登校出現率	小学校 0.74% 中学校 3.32%	小 0.45% 中 3.02%	小 2.5% 中 3.09%	小 1.8% 中 5.4%	小 0.67% 中 2.99%	小 0.52% 中 1.53%
KPI	4-3-4	いじめの解消率	100%	100%	83.0%	70.2%	100%	77.5%
KPI	4-3-5	端末を自宅学習に活用した児童生徒の割合	0%	89.0%	91.7%	81.7%	100%	96.9%

令和6年度の実組み及び前期計画を総括した自己評価(※A～D)			評価
4—3—1	学校・家庭・地域との連携・協働	学校教育課	A
取組内容や 今後の方針	学校・家庭・地域で目指す子ども像を共有し、様々な地域資源を活用した活動を展開したことで、「大洗うみ・まちコミュニティスクール(学校運営協議会)」と地域学校協働活動を一体的に推進することができた。特に、「総合的な学習の時間」では、将来の町の姿について、児童たちと地域住民がともに考え、議論する活動を定期的に実施することができた。 茨城工業高等専門学校との連携により、海洋プラスチックごみをテーマとした SDGs授業やレゴロボットを使ったプログラミング授業などを実施することができた。 大洗交番所長をゲストティーチャーとして、「闇バイト防止教室」を町内4校で実施し、児童生徒への意識化を図った。また、八朔祭りでは、教職員・PTA による夜間パトロールを実施し、非行防止活動に取り組んだ。		
4—3—2	信頼・尊敬される教員の育成	学校教育課	B
取組内容や 今後の方針	町教育委員会において、「学級経営充実サポート訪問」として、担任をもつすべての教職員と若手教員の授業参観と面談(年3回程度)を実施し、授業力向上と学級経営のサポートを行った。特に、教職3年目までの教員や初めての異動経験者、中学校から小学校への異動者等の授業力のスキルアップや心のケアを実施した。		
4—3—3	学習環境の整備と学校組織運営の改善	学校教育課	B
取組内容や 今後の方針	「各校での安全点検(月1回)の実施」及び「学校での小破修繕及び学校教育課への修繕依頼」という迅速な対応により、安全な教育環境を提供できている。 避難所としての対策においては、夏季大雨時の一時避難所として、空調設備の完備されている南小中共用体育館を活用するなど、関係各所との連携体制を図ることが出来ている。		

(次のページへ続く)

令和6年度の取組み及び前期計画を総括した自己評価(※A～D)			評価
4—3—4	いじめ・不登校等への対策と安全確保	学校教育課	B
取組内容や 今後の方針	「学級経営充実サポート訪問」を実施し、学級担任一人一人の課題に即して、授業改善・学級経営改善のための指導助言(面談形式)を行い、生徒指導の充実に努めた。町教育センターの学校教育指導員と一緒に訪問をすることで、配慮を必要とする児童生徒の観察や対応のアドバイスをもらうことができた。また、学校の要請に伴い、相談員を学校に派遣する「アウトリーチ型」の対応も積極的に実施し、教室に入れない児童生徒や配慮を要する児童生徒の対応を行った。 校内では、児童生徒に対して定期的にアンケート調査を実施するとともに、悩みなどの相談に対し、校内オンライン窓口を開設するなど、いじめ・不登校等の早期発見、早期対応に努めている。		
4—3—5	すべての子どもたちへの学習機会の確保	学校教育課	B
取組内容や 今後の方針	各校におけるオンライン授業の体制整備は整っており、また、家庭学習での活用においては、調べ学習、授業の続きの実施、振り返りカードの共有化など、各学校や学年で取り組んできた。 今後は、発達段階や児童生徒の実態により、ICT の活用(AI ドリルや紙のドリルの選択等)を適切に行い、自分に合った学習方法の選択ができる力の育成に努める。不登校傾向の児童生徒に対しては、学校の空き教室を活用した校内フリースクールや教育センターの活用(児童生徒、保護者の相談等)の紹介等を行い、学習機会の確保を行っていく。		

審議内容(委員意見や質疑内容など)	
4-3-1	委員:「児童と地域住民が議論する活動」を定期的実施したとあるが、回数などはどうなっているか。 担当:昨年度実績は、南小で3回、南中で2回、大洗小及び一中ではそれぞれ1回ずつ実施している。
4-3-4	委員:不登校の基準は。 担当:年間で30日以上登校しない児童生徒を不登校としている。 委員:町内ではどの程度の人数がいるのか。 担当:昨年度、小学校では3名、中学校では5名が、新たに不登校となっている。 委員:KPI「不登校出現率」について、前年度から引き続き不登校となっている児童生徒は含まれていないのか。 担当:含んでいない。出現率は、県平均では小学校が2.2%、中学校が6.7%となっており、本町は県平均よりは少なくなっている。
4-3-5	委員:KPI「自宅で端末を利用した割合」について、96.9%と高い数値だが、これは家庭の通信環境が整っている割合と同じものと考えていいか。 担当:あらかじめ端末にインストールされている問題集を活用した場合なども含まれており、通信環境が整っている中での活用割合ではない。 委員:教育センターの活用についても記載があるが、現在、どの程度の利用があるのか。 担当:現在は3名程度が通っている。 委員:その子たちが学校に行けない理由は把握しているか。 担当:教室に入り辛いという声を聴いている。 委員:その3名の仲の問題はないのか。 担当:3名とも別々に通っているため、顔を合わせることはない。

第6次大洗町総合計画 令和6年度事業評価シート

施策番号	施策名	担当課
4-4	生涯学習活動の推進	生涯学習課

	施策	目標及び指標	基準値 (令和2年)	推移(年度末)			現状値(令和6年度)	
				令和3年	令和4年	令和5年	目標値	実績値
KGI	-	社会教育の推進に対する住民満足度	21.2%	-	-	-	42.0%	69.7%
KGI	-	成人の週1日以上スポーツ実施率	45.4%	コロナ禍で 未実施	28.6%	47.5%	55.0%	46.1%
KGI	-	芸術文化の振興に対する住民満足度	19.6%	-	-	-	40.0%	62.8%
KPI	4-4-1	公民館講座受講者数(年間)	144人	126人	248人	209人	250人	181人
KPI	4-4-2	家庭教育に関する講演会への参加者	46人/年 (令和元年度)	50人/年	50人/年	54人/年	60人/年	61人/年
KPI	4-4-3	スポーツイベントの年間参加者数	4,000人	302人	2,101人	2,596人	4,500人	3,525人
KPI	4-4-4	プロスポーツチームとの交流イベント数	毎年度開催	3回/年	5回/年	7回/年	3回/年	8回/年
KPI	4-4-5	老若男女が堪能できる演目を企画する	2回/年	3回/年	3回/年	4回/年	4回/年	4回/年
KPI	4-4-6	体験講座等を開催し、文化団体への新規加入を促す	新規設定	0回	0回	0回	1回/年	1回/年

令和6年度の実施計画及び前期計画を総括した自己評価(※A～D)				評価
4-4-1	社会教育の推進	生涯学習課		B
取組内容や 今後の方針	公民館講座を継続的に開催し、学習機会・交流機会の充実を図った。また、公民館講座・自主サークルの情報発信や学習成果の発表の場として生涯学習フェスティバルを開催し、自主的な生涯学習活動を行っているグループ等の活動支援を行った。読書活動の推進を図るため、図書だより、広報誌、ホームページ等で広報活動を行った。今後も多様な学習ニーズに合わせた、学習活動の場の充実を図っていく。			
4-4-2	青少年の健全育成	生涯学習課		B
取組内容や 今後の方針	北海道洋上体験や海っ子・山っ子体験交流等の自然体験活動や社会体験活動をとおして、子どもたちの豊かな心の育成を図った。また、家庭教育学級の合同講演会では、性的マイノリティについての講話やワークショップを行い、性的マイノリティに関する正しい認識と、多様性を理解しお互いを尊重することの大切さについて考えるきっかけづくりができた。引き続き、学校・家庭・地域等で連携し、青少年の健全育成を図る取組を推進していく。			
4-4-3	スポーツ・レクリエーション活動の推進	生涯学習課		B
取組内容や 今後の方針	各種スポーツイベントやスポーツ教室、定期的にスポーツ広場を実施するなど、住民の運動・スポーツ参加の機会を提供した。天候に恵まれず、参加者が減少した大会もあったが、全体的に見てみると参加者数は増加傾向にある。関係団体と更に連携を図りながら、引き続き、町民の運動・スポーツ機会の拡大とスポーツ実施率の向上に取り組んでいく。			
4-4-4	指導者・団体の育成、強化	生涯学習課		B
取組内容や 今後の方針	プロスポーツチームと交流し、プロの技術や指導に触れることで、スポーツへの意欲や技術力の向上に寄与することができた。また、スポーツ少年団による保育園・幼稚園訪問やスポーツフェスティバルを開催し、子どもたちに運動の楽しさや興味関心を持つ機会を提供した。今後も、指導者講習会への参加等を通して指導者の育成・強化を図るとともに、スポーツ少年団の維持継続を促進していくために活動を支援していく。			

(次のページへ続く)

令和6年度の取組み及び前期計画を総括した自己評価(※A～D)			評価
4—4—5	芸術文化活動の充実	生涯学習課	A
取組内容や 今後の方針	芸術鑑賞の集いについては、小学生全学年を対象にヴァイオリンとピアノのクラシック音楽の「スギテツ ～クラシックを遊ぶ音楽実験室～」を実施し、昨年度に引き続き双方向的・体験型の演目が好評であった。 また、音楽祭についても昨年同様プロの音楽家を中心に幅広いジャンルのコンサートを開催し好評であったため内容を変えながら今後も継続していく。 令和5年度から県内の映画配給会社との共同で映画上映会を開催することで、経費を抑えた事業実施を図っている。来場者も定着してきたため来年度も継続していく。		
4—4—6	文化団体の活動の推進・支援	生涯学習課	B
取組内容や 今後の方針	生涯学習フェスティバルや芸術文化祭において、体験コーナーや発表、展示活動を実施することで芸術文化協会の活動を周知するとともに、会員の新規加入者促進活動を行った。 幅広い町民が文化活動への興味関心を持てるように、また、芸術文化協会会員の新規加入促進のために、生涯学習課主催による芸術文化体験講座(貝合わせ体験)を実施し、8名の参加者が集まった。 令和7年度については、違う種類の体験講座や実施方法を検討しながら継続していく。		

審議内容(委員意見や質疑内容など)	
4-4-1	委員:生涯学習フェスティバルについて、毎年、集客に苦戦している。発表の場があることは良いことだが、見てくれる人が少ないのが現状。せっかく多くの発表があるのに、もったいないと感じる。 担当:生涯学習フェスティバルは、参加者の皆さんで作上げるイベントと考えている。作品展示のみ参加者にも、ぜひステージを見に来てほしいと声掛けはしている。以前に、高校生会のダンス発表があった際には、小学生も見に来て応援してくれるなど、ステージも盛り上がりがあった。根本にあるのは、「みんなで作り上げるイベント」という考えのため、行政としては広報 PR などで集客に努力していきたい。 委員:発表する当事者の方々に、今後、どうすればみんなが盛り上がるのか、一緒に考えてもらうことも必要かもしれない。 担当:参加者とともによく協議検討し、イベントとしてさらに盛り上がるものになるよう努める。
4-4-2	委員:性的マイノリティについて、人によって主義主張が違うこともあると思うが、合同講演会はどういった目線で実施したのか。 担当:人権尊重の担当部署でもあることから、人権尊重、人権教育の考えに基づき実施した。 委員:目的としては、多様性を大事にしましょう、尊重しましょうといったことか。 担当:そういった趣旨で、実際に性的マイノリティの当事者の方に講演いただいた。ぜひ多くの方に聞いていただきたいような内容だった。
4-4-4	委員:指導者講習会について、希望すれば誰でも受けられるのか。 担当:スポーツ少年団で指導者として登録が必要な方を対象としている。各団体とも、少なくとも2名は指導者講習を受講したうえで指導者として登録が必要となっており、団体から講習会受講の希望があれば補助している。 委員:これまでの受講実績は。 担当:令和5年度にミニバスで2名と野球で3名、令和6年度はミニバスで1名、今年度は野球もミニバスも、複数の方が受講を希望している。 委員:各団体、2名以上なら何名でも登録と受講ができるのか。 担当:その通り。ただ、講習の有効期限は4年となっているため、今後は再度の受講者も想定される。

第6次大洗町総合計画 令和6年度事業評価シート

施策番号	施策名	担当課
4-5	歴史資源の保存と活用	生涯学習課

	施策	目標及び指標	基準値 (令和2年)	推移(年度末)			現状値(令和6年度)	
				令和3年	令和4年	令和5年	目標値	実績値
KGI	-	磯浜古墳群の国指定数量	3基	3基	3基	3基	4基	3基
KPI	4-5-1	史跡磯浜古墳群保存活用計画の策定	未策定	未策定	未策定	策定	策定	策定
KPI	4-5-2	大洗遺産の認定	1件	1件	1件	1件	2件	1件
KPI	4-5-2	大洗遺産「磯節」の広報	2件/年	2件/年	2件/年	2件/年	4件/年	2件/年
KPI	4-5-4	企画展・特別展入館者数(年間)	2,287人 (令和元年度)	1,596人	2,860人	1,548人	2,600人	4,003人
KPI	4-5-4	博物館入館者数(年間)	4,745人	7,340人	10,943人	9,065人	8,000人	9,776人

令和6年度の取組み及び前期計画を総括した自己評価(※A～D)							評価
4-5-1	史跡磯浜古墳群の整備	生涯学習課	取組内容や 今後の方針	磯浜古墳群史跡保存活用計画に基づき、史跡整備基本計画の策定に向け史跡整備検討委員会条例を制定し、2回の委員会を開催。令和7年3月現在、史跡指定地25筆の内9筆を買上げし、13筆が公有地(面積の76%)。Facebook・X『大洗町の歴史と文化』の運営。今後も歴史資源の核として整備を進めていく。			B
4-5-2	大洗遺産の認定	生涯学習課		大洗遺産制度、及び遺産第1号の磯節について、町内外への戦略的な発信を進めるため、チラシやホームページに特設ページを設けて、周知につとめている。Facebook・X『大洗町の歴史と文化』を通した情報発信により、広報を拡大している。また、第2号遺産の認定に向けて取り組みを強めている。			C
4-5-3	文化財の保護活用	生涯学習課	取組内容や 今後の方針	町埋文調査報告書第29集『平成28年度大洗町内遺跡調査報告書』の刊行、Web上のPDFデータから内容を読める。開発に先立つ試掘調査・発掘調査の実施。4月の寺ノ上遺跡第8次調査の発掘調査に伴い、9世紀代の平津と鹿島郡家を結んだ古代の道路跡が検出され、全国的に注目されている。展示を連動させた第7回考古学シンポジウム『ヤマト王権と磯浜古墳群』は、300名を超える聴衆が集まり、好評であった。			B
4-5-4	歴史文化の普及	生涯学習課		茨城アトライン協定にもとづき歌川広重が描いた東海道五十三次の特別展を開催し、関連イベントとして東海道五十三次についての館長講座や水戸道中の宿場(稲吉宿・長岡宿)を現地見学した。また、町に縁のある詩人山村暮鳥の特別展を開催し、研究者による講演会や暮鳥会会長を案内人にした文学散歩を実施した。			A

審議内容(委員意見や質疑内容など)	
4-5-3	委員：古代の道路跡の発見が注目されているのはわかったが、それをきっかけに大洗を訪れる人は増えたか。 担当：現場は既に埋め戻しており、直接道路跡を見ることはできないため、見に来る人はいない。ただ、貴重な発見であることから、発掘現場を3D スキャンしたデータをホームページで公開して閲覧できるようにしている。